クロサイ（*Diceros bicornis* ）の皮膚のケアについて

五十嵐 真由美
横浜市立金沢動物園

金沢動物園では，1991 年からクロサイを飼育している．現在，雌雄の 2 頭を飼育しているが，公益社団法人日本動物園水族館協会のクロサイ繁殖計画の方針により繁殖を止めている．そのため，現在は，同居を行っていない．雌雄とも 34 歳（2023 年 2 月現在）となり，国内飼育園館中では高齢個体から数えて 2 番目，3 番目となっている．クロサイの平均的な寿命は約 40 年であるため，今後は高齢個体に適したケアが必要だと思われる．今回，冬季に皮膚が乾燥してしまい，肌のトラブルが増加したため，その症状改善を試みた対策について紹介する．

2022 年 1 月 11 日から 2022 年 3 月 18 日の期間は，クロサイ展示場前の水モートの工事のため，展示場を使用することができなかった．このため，泥浴びをすることができず，皮膚が一段と乾燥してしまった．これに加え，寒さの軽減のため，温風機を雌の室内側に向けて使用したため，体表の乾燥が進み，更に皮膚の状態が悪化していった．皮膚乾燥が著しくなってしまったため，雌の室内に直風が当たらないように，温風機を移動した．その代わりの寒さ対策として，温風機を 1 個から 2 個に増やし，室内全体を暖める方向に変更した．また，2 頭とも自ら泥浴びをしないため，上野動物園でのクロサイの飼育方法を参考に，黒土と赤土を 1 対 1 の割合で混ぜ，泥状にした土を，クロサイの肌に塗ってみることを試みた．　肌に泥を塗ったところ，数日間泥で皮膚が守られた状態となり，肌の状態の悪化が抑えられた．一方、雌の皮膚乾燥とは別に、雄には褥瘡ができてしまった．その原因としては，皮膚の乾燥と高齢化が考えられる．室内改善とともに，肌や傷の手入れ等をスムーズに行うため，馴致トレーニングを進める必要があると思われる．